

# 国語調査部会の取組

## 目指す子ども像

- 複数の資料を的確に読み取ることができる子ども
- 比較したり評価したりして読むことができる子ども
- 条件に合わせて自分の考えを書きまとめることができる子ども



## 取組

### 実証授業で検証

- ☆ 評価問題で定着の度合いを確認！
- ☆ より効果的な指導の在り方を求め、指導案・教材を改良



### 「指導例(指導案・教材)」と「指導後の評価問題」の作成

- ☆ 今、求められている力を伸ばす魅力的な学習活動
- ☆ 意欲を高める身近で分かりやすい教材を使用
- ☆ 短時間(1～2時間)で指導・評価できるコンパクトな内容
- ☆ 児童生徒の実態に合わせてアレンジ可能な内容
- ☆ 小学校5例、中学校5例

Web ページ「確かな学び豊かな学び滋賀の学び」

<http://www.shiga-ec.ed.jp/manabi-shiga/>からダウンロード可能



## 課題

- ◆ 複数のテキストを的確に読み取ることが苦手
- ◆ 複数のテキストを比較したり関連させたりして読み、考えることが苦手
- ◆ 自分の考えを条件に合わせて記述することが苦手

## ー調査部会の取組から見えてきた指導のポイントー

### 複数の資料を的確に読み取る力を伸ばすには

それぞれの資料(文章、表、グラフなど)について、何が書いてあるのかということ、しっかりと読み取らせる時間を設けましょう。その際には、学習活動の設定をイメージさせて、「何のために読むのか」という目的意識をもたせることが大切です。そうすることにより、自分の考えに結び付く情報を読み取る力が身に付きます。

### 比較したり評価したりして読む力を伸ばすには

与えられた複数の資料を比較して共通点や相違点を考えたり、その資料のよさや改善点などを考えたりする学習活動を繰り返し行いましょう。そうすることにより、資料を根拠にして自分の考えを組み立てる力が身に付きます。

### 条件に合わせて書きまとめる力を伸ばすには

小学校の児童は経験が少ないため、まず、条件に合わせて書かれた文章を読む学習でイメージをもたせることが大切です。その後で、自分も同じ条件で書くことにチャレンジさせましょう。

中学校では、「自分の考えを、資料を根拠にして書く」という条件で書く学習活動を繰り返し行い、考えを理由とともに書きまとめることに対する抵抗を取り除きましょう。

指導のねらい

◇ 複数の資料を的確に読み取る(領域:「読むこと」)

指導例

(1時間扱い/4・5年生対象)

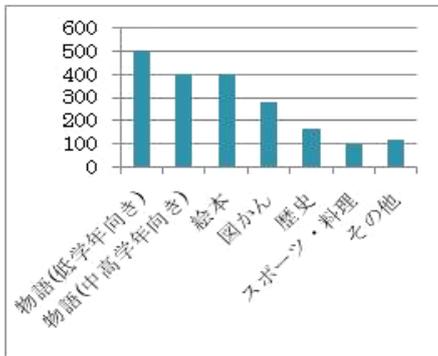
学習活動の設定

図書委員会では、図書室に新しい本を増やすことが決まりました。どの種類の本を増やすのがよいか、資料A・B・Cを読んで考え、自分の意見をまとめましょう。

1 資料A・B・Cを、それぞれ読み取る。

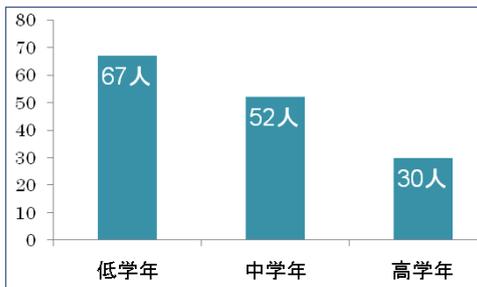
【資料A 図書室にある本の種類ごとの冊数】

【資料B 一週間の貸し出し冊数のランキング】



低学年	1位	絵本	186冊
	2位	物語	117冊
	3位	図かん	65冊
中学年	1位	物語	126冊
	2位	絵本	89冊
	3位	歴史	52冊

【資料C ある日の図書室の利用者数】



あなたは、どの種類の本を買えばよいと思いますか。資料A・B・Cから分かることを関連させて考えましょう。



図書室の利用者は低学年が多く、絵本をよく借りていることが分かります。絵本は低学年向きの物語より少ないので、絵本を増やせばよいと思います。

2 どの種類の本を増やしたらよいか、資料A・B・Cを関連させて考え、理由とともに書く。

3 自分の意見を明確にして話し合う。

4 友だちの意見を聞いて自分の考えを深める。

ここがポイント

- それぞれの資料を読み取った後、関連付けて考えさせる。
- 資料の内容を根拠として、自分の考えの理由を述べさせる。

指導のねらい

◇ 比較したり評価したりして読む(領域:「読むこと」)

指導例

(1時間扱い/6年生対象)

学習活動の設定

ひろしさんは、京都での校外学習の記録文「まるで別荘のような銀閣」を書くことにしました。ひろしさんは、銀閣について、「調べたことや見てきたこと(事実)」と、「見た感想(意見)」を分けて書くつもりで、文章構成を考えました。ところが、ひろしさんが書いた記録文は、事実と意見が混ざり、分かりにくくなってしまいました。事実と意見を分けた分かりやすい記録文にするにはどうすればよいか、考えて読みましょう。

1 【資料① 記録文の文章構成】を参考にしながら、【資料② ひろしさんが書いた記録文】を読み、事実と意見との混在に気付く。

【資料① 記録文の文章構成】

「まるで別荘のような銀閣」

はじめ

① 見学した月日、気温、天気(事実)

② 銀閣を見学地を選んだ理由(意見)

なか

③ 事前に調べたこと(事実)

④ 実際に見てきた銀閣の様子(事実)

⑤ 銀閣についての感想(意見)

おわり

⑥ 他の文化財についても調べ、日本の歴史を深く知りたい(意見)

【資料② ひろしさんが書いた記録文】

「まるで別荘のような銀閣」

(前略)

③ 銀閣は、一四八九年に八代將軍足利義政が建てた二階建てのお寺で、書院造が取り入れられている。ぼくは、まるで別荘のようだと思った。

④ 実際に見ると、銀閣の庭はとても広い。その庭には、コケが多くあり、木などの植物も多くあった。自然が美しく、とても落ち着いたふんいきだと感じた。

(後略)



教師

「事実」の文には赤線を、「意見」の文には青線を引きましょう。

2 このように書き直せばよいという自分の考えを友だちと話し合う。



「ぼくは、まるで別荘のようだと思った。」というのは、ひろしさんの感想(意見)だから、⑤の段落に書くほうがいいと思います。

ここがポイント

- 「事実」とは実際の出来ごとや様子、「意見」とは筆者の感想や考えであることを押さえる。
- この学習を通して、「事実」と「意見」を区別して読んだり書いたりするように意識させる。

指導のねらい

- ◇ 比較したり評価したりして読む(領域:「読むこと」)
- ◇ 条件に合わせて自分の考えを書きまとめる(領域:「書くこと」)

指導例

(2時間扱い/5・6年生対象)

学習活動の設定

「車の少ない安全な社会を」という文章と、「安全な車の開発を」という文章を読み、考え方の共通点と相違点をとらえましょう。そして、体験などをもとに、自分はどちらの考え方に近いかを判断して考えをまとめましょう。

1 二つの資料(文章)の共通点と相違点を読み取る。

【資料① 「車の少ない安全な社会を」】

(要約)  
交通事故をなくすためには、みんなが、できるだけ公共交通機関を利用し、自家用車に乗る機会を減らせばよいと思う。  
また、幼い子やお年寄りが安心して歩けるように、車が通る道と歩行者が通る道を区別することもよいと思う。  
どちらも簡単にできることではないが、一人ひとりが努力をして、住みよい街をつくるのが大切だ。

【資料② 「安全な車の開発を」】

(要約)  
交通事故をなくすためには、より安全な車を開発することが大切だと思う。  
自動車会社では、乗っている人の安全を守るための開発はされているが、歩行者の安全を守るための開発は十分にされてはいないのでないか。  
車は社会生活をするうえで、必要なものである。大きな被害が出ないように安全な車の開発が大切だ。



教師

それぞれの文章には、どのような考えが書かれているでしょう。共通するところと違うところを見付けましょう。



どちらも、交通事故をなくすためにどうすればよいか、ということが書いてあります。でも、そのためのアイデアは違います。資料①では……。資料②では……。

2 体験などをもとに、自分は二つの資料(文章)のどちらの考え方に近いかを判断して考えを書く。



わたしは、資料①の考え方に賛成です。その理由は……。

ここがポイント

- 共通のことが書かれている部分と、違うことが書かれている部分に色別の線を引かせる。
- 文章を比較するときには、内容を対応させて考えさせるようにする。

指導のねらい

◇ 条件に合わせて自分の考えを書きまとめる(領域:「書くこと」)

指導例

(1時間扱い/4~6年生対象)

学習活動の設定

新聞委員のみつ子さんは、図書委員から「おはなし会」のお知らせの記事を書くように頼まれました。そこで、みつ子さんは、大事なことを抜かさないように書くために、前にかずおさんが代表委員に頼まれて書いた「あいさつ運動」のお知らせの記事を参考にして書くことにしました。

- 1 「あいさつ運動」の記事を読んで、「お知らせの記事として大切な事柄」を読み取る。

【「あいさつ運動」のお知らせの記事】

「あいさつ運動」が始まります

近ごろあいさつをする人が少なくなってきたので、代表委員会が中心となり、「あいさつ運動」に取り組むことにしました。

「あいさつ運動」は、くつばこの前で、八時から八時十分まで行います。

代表委員が中心になって、みなさんによびかけます。みなさんもあいさつして気持ちのよい一日を始めましょう。

この記事では、だれが、何のためにやるのかということを書いてあるわ。

いつ、どこで行われるのかということも書いてあるよ。



教師

お知らせの記事を書くときには、「だれが」「何のために」「いつ」「どこで」「何をするのか」という情報を落とさず書きましょう。

【「おはなし会」の取材メモ】

キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
図書委員がする	内容 ・本の読み聞かせ ・新しい本の紹介	場所 図書室	時間 昼休み	開 き 日 十月二十九日	「おはなし会」のよいところ	図書委員からのお知らせである

- 2 みつ子さんになったつもりで、「お知らせの記事として大切な事柄」を落とさないように、「おはなし会」のお知らせの記事を書く。記事を書くときには、『おはなし会』の取材メモ』の材料を取捨選択して使い、順序を考えて書きまとめる。

ここがポイント

- 「大切な事柄を落とさないように書く」という条件に合わせて書かせるために、事前にその条件に合った文章を読む学習を取り入れ、「お知らせの記事として大切な事柄」について理解させる。

指導のねらい

- ◇ 複数の資料を的確に読み取る(領域:「読むこと」)
- ◇ 条件に合わせて自分の考えを書きまとめる(領域:「書くこと」)

指導例

(1時間扱い/5・6年生対象)

学習活動の設定

市の広報誌に「私たちの学校を紹介する記事」を載せてもらうことになりました。新聞委員会では、全校児童を対象として、「私たちの学校の好きなおところ」の調査を行い、表にまとめました(資料①)。そして、その表をもとに、どのような記事にすればよいかということをお話しました(資料②)。

1 資料①と資料②を読み取る。

【資料① 私たちの学校の好きなおところ】

項目	1年	2年	3年
ジャンボタワー	10	8	15
色別遊び	9	6	5
図書室	1	4	4

【資料② 話し合いの一部】

(後略)

田中 「ぼくはジャンボタワーのことをのせたいです。」

山本 「わたしも、ジャンボタワーは他の学校では見かけない遊具だし、おにごっこやかくれんぼができておもしろいから、それをのせたいと思います。」

川上 「わたしは、図書室をしようかいいと思います。」

田中 「私のクラスには本を読むのが好きな人がたくさんいます。」



教師

資料①から、学年や項目(ジャンボタワー、色別遊び等)による違いを読み取って話し合いましょう。



色別遊びに比べて、「ジャンボタワーが好き」と答えた人のほうが多いことが分かります。

資料②から、ジャンボタワーや図書室などのよさを読み取って話し合いましょう。



ジャンボタワーで、おにごっこやかくれんぼができるから、低学年に人気があるんですね。



資料①から一つの項目を選び、なぜそれを選んだのかという理由を考えましょう。



2 記事に書くとよいと思う項目を一つ選び、自分の意見を書きまとめる。

ここがポイント

- 学習の設定を理解させ、だれに何を伝えるのかを意識させる。
- この学習後に意見を交流し、自分の考えを広げたり深めたりする学習を行うと効果的である。



指導のねらい

- ◇ 複数の資料を的確に読み取る(領域:「読むこと」)

指導例

(1時間扱い/2・3年生対象)

学習活動の設定

「論語」の中の言葉「君子は義さとに喩しやうじんり、小人は利りに喩りる」について、【資料① Aさんと先生の会話】と、【資料② ある新聞のコラム】を読んで考えましょう。

- 資料①・②から「君子は義に喩り、小人は利に喩る」の意味をとらえ、それぞれの資料の場面で考えられる「君子」としての行動と、「小人」としての行動を読み取って表にまとめる。

【資料① Aさんと先生の会話】

Aさん 「先生、今日は先生も来られないし怒られないからと言って、みんな全然掃除をしてくれなくて、わたし一人で大変でした。」(中略)

先生 「Aさんとみんなでは大切にしていることが違うのですね。『君子は義に喩り、小人は利に喩る』といえますから。」

Aさん 「それだと、わたしが君子で、みんなが小人ということになるのですね。」

資料①の場合だと、君子とは、教室をきれいにするために、先生が来なくてもきちんと掃除をする人のことだよ。

小人とは、先生が来ないと怒られないからと言って、掃除をしない人のことね。

【資料② ある新聞のコラム】

最近、食品偽装で告発される企業が増えている。なぜだろうか。おそらく、「義」よりも「利」を優先させる経営者が増えたからであろう。毎日、大量の食品が製造され、売れ残り、廃棄されている。企業にとって、これは無視できない損失だ。ただ、その解決策が、消費期限を書き換えてもう一度売ることでは、「小人は利に喩る」と言われても仕方がない。(後略)

資料②の場合だと、君子とは、常にお客さんや社会のことを考えて、安全な食品を提供する会社のことだね。

小人とは、利益を上げるために売れ残りの商品の消費期限を書き換えてもう一度売る会社のことね。

- 二つの資料から、「義」と「利」の意味を考える。

「義」というのは、人として正しい行いをすることだと思うわ。

そういえば、「正義」という言葉があるよね。

ここがポイント

- 二つの資料を読み比べ、両方の資料の内容をヒントにして「君子は義に…」の意味をとらえさせる。
- 「論語」の言葉が、身近な生活につながっていることに気付かせる。

## 指導のねらい

- ◇ 比較したり評価したりして読む(領域:「読むこと」)
- ◇ 条件に合わせて自分の考えを書きまとめる(領域:「書くこと」)

## 指導例

(1時間扱い/3年生対象)

## 学習活動の設定

二つの俳句を比較し、その共通点と相違点を見付けましょう。また、比較を通して読み取ったことをもとに、二つの俳句の解説文を書きましょう。

- 1 前時までの俳句の学習を振り返り、俳句を味わう際の視点を確認する。

俳句を味わうときには、感動の中心はどこか、季節はいつかといったことを手がかりにするとよかったんだよね。



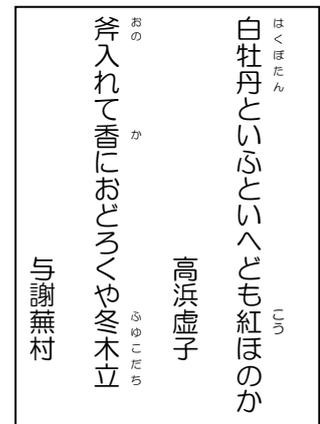
対比されているもの(こと)は何かを考えることも大事だったわ。

- 2 二つの俳句を比較し、共通点と相違点を見付ける。



教師

感動の中心、季節、対比、作者の心情などの視点で二つの俳句を味わい、比較しましょう。



- 3 二つの俳句の共通点と相違点を友だちと交流する。

虚子は、白牡丹は白い色だけれど、よく見るとほのかに紅色がかっているということを見つけたんだね。



蕪村は、冬の木に斧を入れたことで、木から発せられる香りに命を発見したのね。発見ということではどちらも同じね。

- 4 二つの俳句の共通点と相違点を踏まえ、与えられた条件に合わせて解説文を書きまとめる。

## ここがポイント

- 俳句を味わう際の視点を押さえ、それをよりどころとして比較させる。
- 解説文を書くときの条件を確認し、それに合わせて書くように意識させる。

指導のねらい

- ◇ 条件に合わせて自分の考えを書きまとめる(領域:「書くこと」)

指導例

(2時間扱い/2年生対象)

**学習活動の設定** ※この学習は「走れメロス」の学習の後で行います。また、他の文学作品にも応用できます。

文学教材「走れメロス」の登場人物に関わる課題について、肯定または否定の立場を決め、根拠を明確にして立論の文章を書きましょう。

- 1 課題『メロスは信頼できる人間である』について、肯定、否定の立場を決め、その根拠となることを文章中から探す。

【「走れメロス」の本文(一部抜粋)】

「そうです。帰ってくるのです。」メロスは必死で言い張った。「私は約束を守りません。(略)そんなに私を信じられないならば、よろしい、この市にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを、人質としてここに置いてください。(略)ここに帰ってこなかったら、あの友人を絞め殺してください。(略)」

会話文と地の文との関わりや、言葉に表れる登場人物の思いに注目して読みましょう。

友人を人質として置いていくほどだから、メロスは約束を守ることに自信があるんですね。とても信頼できる人だと思います。



教師



- 2 自分の決めた立場で、立論の文章を書きまとめる。



文章中の言葉を使って、あなたの考えの根拠を述べましょう。

説得力をもたせるため、根拠はできるだけたくさん挙げるつもりです。



- 3 自分の決めた立場とは反対の立場で読み、反論の文章を書きまとめる。



両方の立場に立って読むことで、文章を客観的に読む力が付きます。

初め、メロスは信頼できると思ったけれど、反対の立場で読むと、本当に信頼できるとは言い切れない気がしてきました。



- 4 友だちと交流し、それぞれの考え方を深める。

ここがポイント

- 一方的な読みではなく、様々な角度から多様な読みをすると読解が深まることを理解させる。
- この学習後に討論の時間を設け、「話すこと・聞くこと」の学習を行うことも有効である。

指導のねらい

- ◇ 条件に合わせて自分の考えを書きまとめる(領域:「書くこと」)

指導例

(1時間扱い/1年生対象)

学習活動の設定

さやかさんの学級では、「主語と述語の関係が整った文を書く」という条件で作文を書くことになりました。そのために、主語と述語の関係が整った文とはどのような文かということを学習し、実際に文を作る練習をしました。

- 1 紙切れが落ちる様子を、主語と述語の関係が整った文で表現する。



教師

これから、この紙切れを私の手から落とします。その様子を一文で書きましょう。異なる主語の文を三つ作りましょう。

・先生が紙切れを落とした。  
・紙切れが教卓の上に着いた。  
・紙切れの落下の特徴は、ゆっくり落ちることだ。



三つ目の文が、なかなか思い浮かばなかったよ。



うまく考えたわね。「特徴は」が主語になると、述語は「ことだ」になるのね。

- 2 主語と述語の関係が整った文を書く練習をする。



練習問題の文を書き換えましょう。

	・冬の部活動のトレーニングは、次の大会の成績を左右するほど重要な部活動です。 ←	
		・わたしの夢は、海外で活躍できるデザイナーになりたい。 ←

練習問題

- 3 友だちと交流して確認し合い、主語と述語の関係について気付いたことを発表する。また、自分の文を見直して修正する。

ここがポイント

- 主部が長くなると述部(語)との関係がとらえにくくなるため、注意が必要なことに気付かせる。
- 主語・述語の関係を考えることを通して、分かりやすい文(文章)を書くことの大切さに気付かせる。